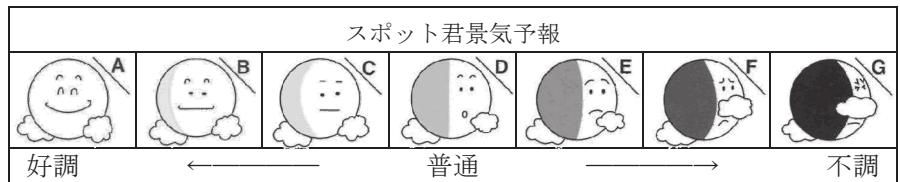


2. 目黒区内中小企業の景況（平成27年7～9月期）

（1）今期の特徴点



製造業



製造業の主要指標をみると、業況は△2.2で前期比4.2ポイント増とやや持ち直した。売上額は0.9で2.2ポイント増となり、やや改善した。受注残は1.1で1.6ポイント減となり、前期並みで、収益は△2.1で0.4ポイント増と前期と比べ変化はない。来期の見通しについては、業況、売上額、受注残、収益ともにかなり厳しさが増す見込み。

価格動向については、販売価格は△3.1で0.5ポイント減と前期並みとなった一方、原材料価格は13.6で4.3ポイント減とやや上昇幅が縮小した。在庫は4.8ポイント減の△1.0と若干過剰から品薄へと転じた。来期の見通しについては、原材料価格はやや上昇幅が縮小、販売価格はやや下降幅が拡大する見込み。在庫は横ばいを予想している。

資金繰りは△10.0で2.2ポイント減とやや厳しさが増した。借入難易度は△10.7で大きく厳しさが和らぎ、借入をした企業は27.2%で5.7ポイント増加した。設備投資動向については、設備投資を実施した企業は10.9%で前期並みとなった。来期の見通しについては、資金繰りは△12.3とやや厳しさが増し、借入をする企業は12.0%と大幅に減少、設備投資を実施する企業は11.0%と変化ない見込み。

経営上の問題点は、1位は「売上の停滞・減少」で38.7%となった。2位は「同業者間の競争の激化」で29.0%、3位は「利幅の縮小」で25.8%となった。

重点経営施策では、1位は「経費を節減する」で54.8%となった。2位は「販路を広げる」で49.5%、3位は「新製品・技術を開発する」で16.1%となった。

卸売業



卸売業の主要指標をみると、業況は10.1ポイント増の1.6と大幅に好転した。売上額は13.9ポイント増の18.9となり大きく増加傾向を強めた。収益は5.0で5.2ポイント増となり、やや好転した。来期の見通しについては、業況、収益、売上額ともに大幅に悪化する見込み。

価格動向については、販売価格は4.8で12.0ポイント増と大幅に上昇に転じ、仕入価格は10.4ポイント増の11.7ポイントと大きく上昇幅が拡大した。在庫については5.3ポイント増の2.2とやや過剰感が緩和した。来期の見通しについては、仕入価格は落ち着きを見せ、販売価格、在庫は横ばいとなる見込み。

資金繰りは5.5で8.6ポイント増と大きく窮屈感を脱した。借入難易度は0.1ポイント増の3.8と前期並みとなり、借入をした企業は25.0%で3.6ポイント減少した。設備投資動向については、設備投資を実施した企業は18.5%と6.5ポイント減少した。来期の見通しについては、資金繰りは△1.2と苦しさが大きく強まり、借入をする企業は17.9%と大幅に減少する見込み。設備投資をする企業については18.5%と横ばいとなる見込み。

経営上の問題点は、1位は「同業者間の競争の激化」で32.1%となった。2位は「売上の停滞・減少」と「利幅の縮小」で同率の25.0%となった。3位は「取引先の減少」で21.4%となった。

重点経営施策は、1位は「経費を節減する」で42.9%となった。2位は「販路を広げる」で35.7%となった。3位は「情報力を強化する」で21.4%となった。

小売業



小売業の主要指標をみると、今期の業況は△15.8で4.8ポイント減とわずかに悪化幅が拡大した。売上額は△10.4で0.3ポイント減と前期並みで、収益は△16.5で10.1ポイント減と大幅に悪化した。来期の見通しについては、売上額はほぼ横這いで、収益はやや減少を強め、業況は幾分厳しさを増す見込み。

価格動向については、販売価格は7.1ポイント増の2.2と大幅に下降から上昇に転じ、仕入価格は15.0で12.7ポイント増とかなり上昇が強まった。在庫は6.9ポイント減の△4.1と、過剰から品薄へ転じた。来期の見通しについては、販売価格は△1.4と下降に転じ、仕入価格は13.8と上昇が弱まり、在庫は△3.6と前期並みの不足感が続く見込み。

資金繰りは△10.0で3.1ポイント増とやや厳しさが和らいだ。借入難易度は5.0ポイント減の△2.7とやや窮屈感が和らぎ、借入をした企業は6.1%で1.9ポイント減少した。設備投資動向については、設備投資を実施した企業は6.3%でわずかに減少した。来期の見通しについては、資金繰りは△12.1とやや苦しさが強まり、借入をする企業は6.1%と今期並みで推移し、設備投資をする企業は2.2%とやや減少する見込み。

経営上の問題点については、1位は「売上の停滞・減少」で49.0%となった。次いで2位は「同業者間の競争の激化」で36.7%、3位は「大型店との競争の激化」で24.5%と続いた。

重点経営施策では、1位は「経費を節減する」で55.1%となった。次いで2位は「品揃えを改善する」で38.8%、3位は「宣伝・広告を強化する」で34.7%となった。

サービス業



サービス業の主要指標をみると、今期の業況は△13.5で8.5ポイント増と大幅に持ち直した。売上額は14.2ポイント増の△5.1と、かなり持ち直し、収益は6.5ポイント増の△8.4と大幅に改善した。来期の見通しについては、売上額、収益、業況はいずれも前期並みとなる見込み。

価格動向については、料金価格は10.0ポイント減で△10.0となり、大幅に下降を強めた。材料価格は6.5ポイント減の8.8となり、大きく上昇幅が縮小した。来期の見通しについては、料金価格は3.0ポイント増の△7.0とやや下降幅が縮小し、材料価格は1.4ポイント増の10.2と、前期並みの上昇が続く見込み。

資金繰りは、△8.9で0.6ポイント増と前期同様変化なく、借入難易度は4.2ポイント減の△6.1と幾分厳しさが増した。借入をした企業は16.1%で2.1ポイント増加した。設備投資動向については、設備投資をした企業は12.3%で3.8ポイント減少した。来期の見通しについては、資金繰りはやや厳しさが和らぎ、借入をする企業は減少、設備投資をする企業は横ばいの見込み。

経営上の問題点は、1位は「同業者間の競争の激化」で43.9%、2位は「売上の停滞・減少」で33.3%、3位は「取引先の減少」で21.1%となった。

重点経営施策では、1位は「経費を節減する」で43.9%、2位は「販路を広げる」で42.1%、3位は「宣伝・広告を強化する」で28.1%となった。

建設業



建設業の主要指標をみると、業況は4.0で9.4ポイント減と大幅に悪化した。売上額は9.7で13.5ポイント減、収益は△1.1で16.1ポイント減と、ともに大幅に厳しさを強めた。施工高は9.8で7.2ポイント減、受注残も5.4で10.4ポイント減と増加幅が縮小した。来期の見通しについては、売上額は、9.7から13.4とわずかに増加し、収益は△1.1から9.2と大幅に増加に転じ、施工高は横這い、受注残は大幅に増加となり、業況は大きく好調感が強まる見込み。

価格動向については、請負価格は13.9ポイント減の7.0と上昇幅が大きく縮小し、材料価格は3.1ポイント減の43.2と上昇幅がやや縮小した。在庫については5.9で2.3ポイント増とやや過剰感が強まった。来期の見通しについては、請負価格、材料価格、いずれも上昇傾向が強まる見込み。

資金繰りは、△2.7で0.1ポイント増、借入難易度は2.7と前期同様変化なく、借入をした企業は7.3ポイント増の28.9で前期よりも大幅に増加した。設備投資動向については、設備投資を実施した企業は10.5%で大幅に増加した。来期の見通しについては、資金繰りは1.8とやや容易になり、借入をする企業は23.7%と若干減少するとみられる。設備投資を実施する企業はやや減少し7.9%となる見込み。

経営上の問題点は、1位は「同業者間の競争の激化」で47.4%となった。次いで2位は「材料価格の上昇」で44.7%、3位は「売上の停滞・減少」で26.3%となった。

重点経営施策は、1位は「販路を広げる」で57.9%。2位は「経費を節減する」で50.0%、3位は「人材を確保する」で34.2%だった。

各業種別業況の動き（実績）と来期の予測

